

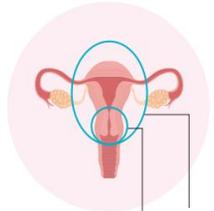
1997年4月2日～2008年4月1日生まれで
これまでにHPVワクチン接種を逃した女性へ

子宮頸がんを予防する HPVワクチンの公費接種(キャッチアップ接種) を受けることができます！ (2023年4月から2025年3月末まで)

2024/6/6

➤ 子宮頸(けい)がんとは？

子宮の頸(けい)部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、日本では毎年、約1.1万人の女性がかかる病気で、さらに毎年、約2,900人の女性が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなる)人も、1年間に約1,000人います。

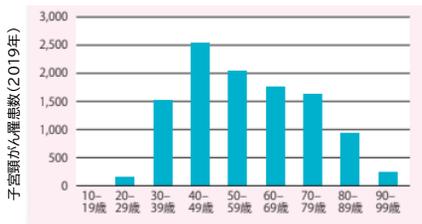


子宮頸部 子宮

詳しくは↓



子宮頸がんは若い女性に多い



1クラス300人とすると・・・

<子宮頸がんになる人>
(1万人あたり132人)



3.96人

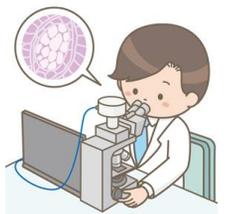
<子宮頸がん で亡くなる人>
(1万人あたり34人)



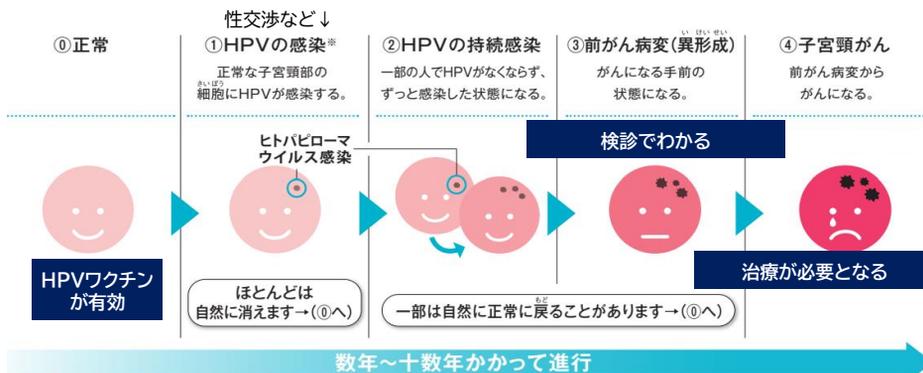
1.02人

➤ 子宮頸がんにかかる仕組み

子宮頸がんの原因は、そのほとんどが性交渉によるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染で生じます。HPVには200種類以上のタイプがあり、少なくとも15種類は子宮頸がんの発生に関係していますが、これらのHPVに感染しても、すぐにがんになるわけではなく、いくつかの段階があります。



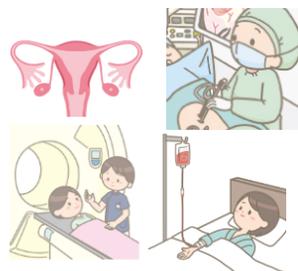
詳しくは↓



※HPV感染は、主に性的接触によって起こります。一生のうちに何度も起こりえます。

➤ 子宮頸がんの治療

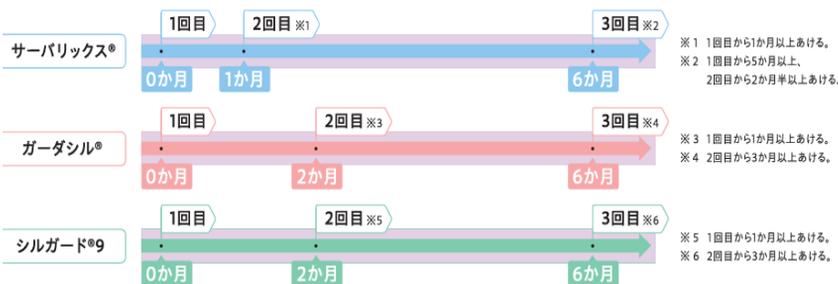
子宮頸がんは、早期発見と早期治療(手術、抗がん剤、放射線治療等)を受ければ、多くの場合、命を落とさず治すことができます。しかし進んだ前がん病変(異形成)や子宮頸がんの段階になると、子宮頸部の一部をレーザーで焼いたり、切り取ることで、妊娠したときに早産のリスクが高まったり、子宮全体を切り取ることで妊娠できなくなります。



▶ HPVワクチン接種について

子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐワクチン(HPVワクチン)は、日本では、①定期接種(小学校6年～高校1年相当の女子)と、②キャッチアップ接種(1997年4月2日～2008年4月1日生まれでこれまでにHPVワクチン接種を逃した女性が対象。2025年3月で終了)が、公費で提供されています。

<公費接種できる3種類のHPVワクチン>



※ いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。
※ シルガード®9は、15歳未満はスケジュールが異なります。

<キャッチアップ接種>



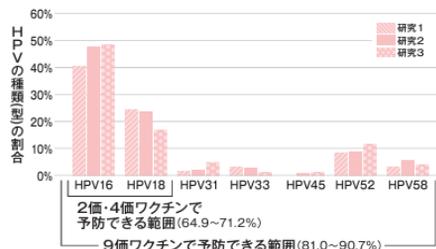
2025年
3月末に
終了
します

詳しくは↓



3回の接種を受けるなら2024年9月末までに初回接種が必要!

<日本人女性の子宮頸がんにおけるHPVの種類(型)の割合と、ワクチンで予防できる範囲>



▶ HPVワクチンの効果

国内外で、HPVワクチンの導入により、子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されています。また、一部の国では、**子宮頸がんそのものを予防する効果があることもわかってきています。** HPVワクチンの接種を1万人が受けると、受けなければ子宮頸がんになっていた約70人ががんにならなくてすみ、約20人の命が助かる、と試算されています。

▶ HPVワクチンのリスク

HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれですが、**重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)が起こることがあります。**

発生頻度	2価ワクチン(サーバリックス®)	4価ワクチン(ガーダシル®)	9価ワクチン(シルガード®9)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10~50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1~10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第14版)、ガーダシル®添付文書(第3版)、シルガード®9添付文書(第1版)より改編

*接種した部位の症状

詳しくは↓



▶ 予防接種健康被害救済制度について

極めてまれですが、予防接種を受けた方に重い健康被害を生じる場合があります。HPVワクチンに限らず、ワクチン接種で、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、法律に基づく救済(医療費・障害年金等の給付)が受けられます。

■ HPVワクチン接種の注意点と相談先



■ HPVワクチン接種(京都市在住の方へ)



■ HPVワクチン接種(厚労省HP)



■ HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q&A)



■ HPVワクチン相談(京大、産業厚生部門)



京都大学 環境安全保健機構・京都大学医学部附属病院 産科婦人科(作成)

資料引用元:厚生労働省等ホームページ